Ｍｙオートルート

北ア　剣沢～小黒部谷～毛勝山～東又谷

中村

【日時】2008年4月26日(土)～29日(火)
【メンバー】L/中村、田辺(利)、矢野、藤本

この数年、体力・スキー技術の向上が実感でき、このGWにはオートルートに挑戦したいと思っていた。そんな時「岳人」3月号で、“新・日本オートルート”の特集が載った。従来の「立山～薬師～双六～新穂高」だけがオートルートではないと書いてある。本家ヨーロッパアルプスのオートルートも、唯一のルートを指しているわけでなく、高い(＝仏:HAUT、オート)所を結んだルートの総称であるそうだ。それに習い日本のオートルートも見直されてきており、岳人の特集には様々なＭｙオートルートの記録が載っていた。

確かに従来のオートルートは稜線上を歩くことが多く、滑るには魅力あるとは言いがたい。そうだ、Ｍｙオートルートを作ろう！ 北アルプスのエアリアを眺めルートを考える。良いルートができた！ 早速、会のメーリングリストで参加者を募る。

【1日目】

前夜、立山駅の無料駐車場に3時半に到着。座ったまま仮眠を取る。朝一番のケーブルに乗り室堂へ。午前中は晴れ、午後から天気が悪くなる予報が出ていたが、バスから降りると、すでに小雪が降っている。待っていても天気は悪くなるだけであるので、さっさと出発する。雪は降っているものの、うっすらと立山や真砂岳が見える。雷鳥平からは、雷鳥沢沿いの尾根を黙々と登る。前後に数パーティがいる。剱御前小屋手前の稜線に上がる箇所は、アイスバーンになっており少々手間取る。

登っている間、晴れ間も見せたが、小屋に着くと再び雪。視界は50mくらいか。本ルート最初の滑走である。初めの50mくらいは少し硬いバーンであったが、その先は快適な雪質。動画を撮り合いながら楽しく滑る。視界がなく、壮大な剱の岩殿が見えないのが残念である。左からいくつかの谷と出合い、長次郎谷出合で小休止。ここまで来ると、他パーティは居なくなった。標高が低くなり、小雪が小雨と変わる。別山沢と真砂沢と出合う辺りから、沢割れが出てきたが問題なく通過。12時半、二俣の近藤岩に到着。池の平まで行ける時間であるが、午後は天気が荒れそうなので、ここで幕とする。しかし、雷が一撃あったのみで、始終小雨程度の雨だった。

三ノ窓雪渓

《登り：500m（雷鳥平2250→剱御前小屋2750m）、滑走：1150m（剱御前小屋2750m→近藤岩1600m）、直線距離6.8km、移動距離8.7km》

【2日目】

今日は、核心部の小黒部谷の通過である。ブロック雪崩が心配なので、できるだけ早く出発。雨は止んでおり青空が見えるが、山頂は霧が立ち込めている。二俣から正面に見えていた三ノ窓雪渓を見送り、北股に入る。デブリがひどい。小窓雪渓との出合で休憩。池の平へは150mの急登となるが、雪が適度に緩んでおりシールで快適に登れた。平の池の平原は一面真っ白な光景。左に池平山、右に仙人山。とにかく真っ白である。小窓の岩峰とのコントラストも素晴らしい。

小窓の岩峰

小黒部谷
（奥は池ノ平小屋の鞍部）

池の平小屋は雪に埋もれていた。小黒部側に5mくらい下りた所で滑走準備をする。時折、氷の粒が平の池からの風に乗って飛んでくる。霧の中、一瞬の晴れ間を待ち滑走開始。上部は急である上、雪が風でパックされて滑りにくい。少し下がると、適度に緩んできて快適に滑れた。

1900mくらいの所から、デブリが所々出てくるが、斜度と雪質は申し分なく、あっという間に、大窓からの谷の出合となる。さあ、ここからが鬼門だ。この先標高1000mまでの間は、両岸が切り立っており、もし沢が割れていたら通過は不可能。この二俣まで戻り大窓から下山となる。ここから見る限りは、谷は雪で詰まっている感じであるが、

両岸には雪はついておらず、土砂を伴ったデブリが谷を横切っている。

ブロック雪崩が怖いので、この先はとにかく沢が割れるまでと、ガンガン滑る。針ノ木雪渓を一回り小さくしたような感じで、両岸は切り立っている。両岸の支谷やルンゼからは、容赦なくデブリが流れ込んでおり、陰気な感じである。ゴルジュ手前で小休止をする。小雨が降ってきて、陰気さがさらに増す。

小黒部谷ゴルジュ帯

ゴルジュは土砂で埋まっており、スキーでの通過は不可能。ゴルジュ地帯を抜けるまで板を担いで歩く。ここまで来ても、まだ沢は割れていない。これなら何とか1000m地点まで行けそうだ！

標高1000m付近で初めて沢が割れ始めたが、スノーブリッジが掛かっており通過可能。この辺りから沢は開けゴーロ帯となる。地形図だとここから折尾谷出合までゴルジュマークであるが、土砂で埋まってしまっているようである。釣り師のものと思われる目印の赤テープが所々にしてある。川原がなくなる度に渡渉を覚悟するが、ちょうど良いところにデブリにより作られたスノーブリッジが掛かっており、結局780m地点まで渡渉することなく滑れた。いつもは嫌なデブリであるが、今日は「デブリ様」である。合計5回スノーブリッジを渡った。その間に雨も止み青空となる。

小黒部谷下部の川原

あと少しで折尾谷出合であるが、さすがにこの先は、渡渉の連続となりそう。左岸に居るので、このまま藪こぎをして台地に上がる。台地上は快適なテン場であるが、まだ少し時間が早い。今日中に折尾谷を渡っておくことにする。台地から折尾谷へは北面だけあって雪がつながり簡単に下りる。折尾谷は完全に沢が出ている。スノーブリッジも全く無い。ついに渡渉かと思ったが、奇跡的に流木が両岸をつないでいた。何て運が良いのだろう！

折尾谷を渡る

渡ったところは2段の台地となっており、小川も流れ気持ち良いテン場だ。しかし、西谷の状況を見ておきたいので、1093Pまで進んでおくことにした。途中で熊と遭遇。1093Pからは、遠く池の谷小屋の鞍部を眺めることができ、今日滑った小黒部谷を一望できる。振り返ると、西谷がウドの頭の岩峰を従え天上に延びている。西谷・中谷の出合から鞍部までびっしりと

雪が埋まっていていることが確認できた。標高が同じなのに、小黒部・折尾谷・西谷と様子が全く違うのが興味深い。両岸が切り立っている谷ほど、雪が埋まっているということか。切り立った両岸からの雪が谷底に落ち、その雪のため沢割れしていないのであろう。

西谷全景

まだ時間が早い。明日の長い行程を考えるともう少し進んでおきたいところだが、地図で見る限り西谷に適したテン場はない。明日も早出をすることとして、今日も早めに行動を打ち切る。時間があるので、下の台地まで滑りついでに、水を採りに行った。

《登り：450m（近藤岩1600→池の平小屋2050m）、滑走：1250m（池の平小屋2050m→小黒部・折尾谷出合800m）、直線距離8.2km　移動距離9.4km》

【3日目】

核心の小黒部谷は通過できた。あとは毛勝山を越えて下山するだけだ。だが、ここから山頂へは1500mの登り。体力的には一番大変だ。

今日も朝5時半出発。朝一番に西谷・中谷二俣まで滑り降りる。急な斜面ではあるが、雪が緩んでいたので問題なかった。二俣でシールをつけ休憩していると、先ほど滑った斜面のすぐ横で、ブロック雪崩が発生。人の大きさ程度の雪ブロックがゴロゴロ転がってくる。あと10分出発が遅かったら、直撃はしなかったものの、土砂を含んだ雪の塊が真横を流れることになり、嫌な思いをするところだった。そういえば、昨夜寝ていたら何度か雪崩の音がしたな～。

毛勝山への登り

雪崩を目の当たりにして、とにかく一刻も早く鞍部に行きたいと、スピードを上げて、かつメンバー間の距離を開けて登る。二俣で1度休憩をたっただけて、標高差850mを一気に登る。1500mくらいから板を担ぎツボ足アイゼンとなる。

後ろはウドの頭と
サンナビキ山

鞍部に立つと、東又谷を経て駒ヶ岳や遠く僧ヶ岳が見通せる。時間が無ければここから東又谷を滑ることも可能だが、時間はたっぷりあるので、計画通り毛勝山山頂を目指す。西谷ノ頭直下は、高度感ある急な斜面をシールで登る。西谷ノ頭を越えた1900mの鞍部で、ツボ足アイゼンに履き替え、ここからは、いよいよ雪稜歩きとなる。2028mで一度

休憩をして、その後は2300mまで一気に登る。この区間は高度感あるうえ、急傾斜で結構怖い。2300mで平らになる。霧の切れ間から、中谷の詰や猫又山が見渡せる。残念ながら今日も剱は顔を出さなかった。ここからは、再びシール歩行で登る。山頂は平らであるが、何となく最も高いところを探し山頂とした。残念ながら霧のため展望はなし。

しばらく霧が晴れるのを待ったが、晴れる様子もないので、コンパスを頼りに滑走開始。2151の尾根を左手に見るような形で霧の中を滑り降りる。150mくらい下りたところで、霧が晴れ滑走ルートが見通せた。雪質は新雪とアイスのパッチワーク状で、新雪のところでターンをすれば快適だ。沢型が屈曲する辺りからデブリが出始め、デブリを避けるようにして、滑り続ける。

東又谷の滑走（矢野）

1750mで隣の沢と出合う。ここから下は斜度も緩くなり、また雪質もザラメへ変わり快適な滑走が続く。あっという間に1434m。わすか40分足らずで1000m滑走したことになる。ここで小休止。山頂は相変わらず霧の中であるが、空には青空が広がる。ルート貫徹が見えてきて、心も晴れやかになる。

最後の鬼門、三階棚滝は雪で埋まっていた。その下の滝２つは出ていたが、右岸を簡単に巻けた。桃アセ谷との出合からは谷は広くなる。ここからは沢は完全に姿を現す。

地形図上の最初の堰堤で、完全に行く手を阻まれる。メンバーと協議し、左岸の10mくらいの小尾根を越えることにした。越えたところは雪が詰まっており右岸に渡り、2つ目の堰堤を簡単に越せた。取水口までは右岸にしっかり雪がついており問題なく通過。ここで休憩。

あとは、林道を下るのみ。うっすらとトレースがついていた。824mくらいまではスキーで通過できたが、この先は雪が無い部分が多く、片貝山荘まで歩くことになる。

予想通り時間が掛かった。すでに4時半。本当は2泊3日の計画であったが、予備日があるので、今夜はここで泊とする。快適な山小屋で、このロングルートの貫徹の祝杯を挙げる。

《登り：1500m（中谷・西谷出合900→毛勝山2400m）、滑走：1700m（毛勝山2400m→700m）、直線距離7.9km、移動距離12.3km》

【4日目】

雪崩のため、第二発電所から奥には車は入れないという情報を、山スキーMLから得ていた。結構な距離があるが、今日は林道を歩くだけなので気が楽だ。途中で春の恵みを採りながらのんびり歩く。第二発電所手前で携帯の電波がようやく届き、タクシーを呼んだ。林道が通行止めでなくても、結局ここまで歩かないといけなかったようだ。

タクシーで魚津駅まで行き、そこから地鉄で立山駅まで車の回収。車窓からは今回のルートの立山・剱・毛勝の山並を眺めながら、魚津駅で買った押し寿司を分け合い乾杯。

《直線距離4.9km、移動距離6.8km》

【総括】

普段、滑りの楽しさばかりに目が行きがちになるが、山スキーの最大の魅力はその機動力であると思う。今回のルートは、直線距離で21km、総移動距離で37kmを3日程度の時間で移動するものであり、スキーの機動力を十分に実感できるルートである。その上、毎日標高差1000mを越える滑走（累計4000m）も含まれ、滑りも十分に楽しめるルートでもある。

一方、小黒部谷の通過が山行成功の鍵を握る。今年の積雪量は平年並みであったようだ。今回は、運良く渡渉なしで行けたが、渡渉がある場合には苦労することになろう。計画時に1000m地点から谷が通れない場合には、左岸をトラバースしようと考えていたが、現地を見る限りそれも困難そうである。

【行程】

1日目：室堂(8:53)～雷鳥平(9:27)～剱御前小屋(10:57/11:12)～剱沢・近藤岩BP (12:37)

2日目：BP(5:28)～池の平小屋(7:18/7:26)～小黒部谷780m付近(10:13)～小黒部谷・折尾谷間台地(10:43)～折尾谷・西谷間1093P BP(12:39)

3日目：BP(5:33)～西谷・中谷出合(5:49/6:03)～西谷ノ頭とウドノ頭間鞍部(8:38/9:08)～毛勝山(12:37/12:57)～東又1434m地点(1:44/1:58)～林道出合(3:17)～片貝山荘(4:37)

4日目：片貝山荘(6:32)～片貝第二発電所(8:00)

【地図】毛勝山、欅平、剱岳、十字峡、立山

【感想】

初めての立山で、室堂の人の多さはさることながら、それ以上に室堂一帯のスケールの大きさにまず驚きました。自然に気持は高ぶり、そのスタート時点で今回の山行が愉快なものになりそうな予感がしました。そして剱沢以降の静寂、行って見なければわからないというわくわく感、一つ一つの滑降ラインの美しさ、一つの目的でまとまった個性豊かなメンバー、どれを取っても素晴らしい要素に満ちており、心地よい達成感を得ることができました。（矢野）

黒部って響きはアルピニズムに溢れている。しかもオートルートっとなると、ことさらに。あたしなんかが体感できたってことは、ほんとうにメンバーに感謝です。面でうひょひょ～って快楽の波に酔っているテレマーク魂に喝！入れられました。会長のお言葉を拝借しますが、「山はいい」スキー万歳です。（田辺）

中村君から計画概要を聞いたときには「何ともマニアックなルート取り！」こりゃ、渡渉必至と思えましたが、幸運な事に渡渉も無く全行程走破出来ました。滑りばかりに目が行き勝ちな今日この頃、さまざまな不確定要素をクリアして長距離を駆け抜けるスタイルを予想以上に楽しむ事が出来ました。（藤本）

とにかく、無事に貫徹できて何より。計画に賛同していただいたメンバー、計画時にアドバイス頂いた会の運営委員に感謝です。（中村）